

## ぼくのお兄ちゃん

小三

ぼくには、一つ上のお兄ちゃんがあります。お兄ちゃんには生まれたときからダウンしようというしやうがいがあります。

お兄ちゃんには、みんなよりも苦手なことがあります。

一つ目は、おしやべりです。つたえたいことがあるのに、言葉がうまく出せなくて、相手につたわらないことがあります。ぼくなら言いたいことが相手につたわらないとイライラしてしまうけれど、そんなときお兄ちゃんは、えがおで、

「ちがあうよお。」

と言って、体や手を使ってジェスチャーゲームのようにしてつたえます。一生けん命なお兄ちゃんを見ていると、言いたいことがつたわってきます。言葉がつたわると、

「そうっ。」

とすぐうれしそうな顔を見せます。ぼくにとって会話をすることは、当たり前のことだけれど、お兄ちゃんにとつては、とてもむずかしいことなんだと思います。がんばり屋のお兄ちゃんはすてきだなと思います。

二つ目は、苦手な場所や音がたくさんあることです。はじめて行く場所や人の多い場所、暗い場所がとても苦手です。こわくて走ってにげ出

してしまうこともあります。おい  
けるのがたいへんです。

大きな音も苦手です。大すきな  
かん車のSLの音や花火の音もこわ  
くて、近くで見ることができません。

そんなとき、お兄ちゃんはいやーマ  
フというヘッドホンみたいなものを  
耳につけます。ぼくもお兄ちゃんの  
イヤーマフをかりて使ってみたこと  
があります。にぎやかな音がまほう  
みたいに消えて、しずかになります。

すごいなと思います。だから、イヤ  
ーマフをつけるとお兄ちゃんは、安  
心していられるんだと思います。大  
きな音が苦手な人がいたら、使っ  
てみるといいよと教えたいです。

三つ目は、苦手なことではないけ

れど、まわりの人より身長が少しひ  
くところですよ。ぼくは、それがと  
てもかわいいなと思います。ときど  
き、ぼくの方が身長が高いことに気  
づいて、「ぼくの方がお兄ちゃんみ  
たいだな。」と思っておもしろくな  
ります。でも、お兄ちゃんは、やっ  
ぱりぼくのお兄ちゃん、ぼくのこ  
とを助けてくれることもあります。  
だから、ぼくたち兄弟は、おたがい  
にささえ合っているんだと思います。

お兄ちゃんはダウンしようで苦手  
なこともあるけれど、ぼくにとって  
は、ふつうのお兄ちゃんです。けん  
かもするし、なかよくいっしょに遊  
びます。ダウンしようかどうかはか  
んけいなく、ぼくのお兄ちゃんは、

ぼくたち家族にとって、とても大切なスペシャルな誕生日なのです。